

すまして後に宮殿に入られる。

結婚式當日の壯麗なる光景、諸侯百官の華麗なる服装はこれを叙するにさすかの筆者すら適當なる言葉を見出し兼ねて居る。相次いで饗宴、誦唱者の古詩誦唱、舞踏、騎士の競技は斯うした祝典には古來よりなくてはならぬ催である。今まで殆二百年間絶え間もなく起つて、蘇國人をして飽かしてゐた英蘇兩國の葛藤戦亂はこの兩王家の結合によつて終止するであらうと考へられたので、王家のみならず國民一般が衷心から悦んだのである。

次に一五〇七年には羅馬法王から贈られた國劍劍帶及び聖幟の受授式がこの僭院で行はれた。蘇國の寶として即 Regalia の一部として今日エザンバラ城内に陳列されてゐるが、この國寶こそは數奇な運命を経て今日に至つてゐる。十七世にクロムウェル軍の侵入を受けた時蘇國會議の決議によつて Dunnotar 城主が預かることになつた。城主はチャールス二世に従つて英蘭に轉戦してゐる。留守を承つた George Ogilvie of Bannock はクロムウェル軍の爲めに包圍され、國寶を安全地に移さんことを企てた。Kinneir の牧師の妻が病床に横める留守時代の妻を見舞ひたいから入城を許せと攻圍軍に申し込んだ。當時の風習として蘇國婦人は必ず羊毛つむぎの手道具を携帶するのが常であつたので、この婦人はその道具に似せて遂に國劍と權票とを城外に運び去ることが出来たが、牧師の妻が乗馬せんとする際に攻圍軍の將 General Morgan は牧師の妻を抱いて助け上げんとした。その時は危

機一髮の處で前掛けの下の國劍は発見されんとし、王冠はころげ落ちんとする處をたすかつたのである。これ等の國寶の一部は教會の敷石の下に埋藏され一六六〇年の王政復古によつて國王の手にかへり、殘餘はその後壁内から発見されグイクトリア女王の手に入り、今日見物人の見るが如く寶庫内に納つてゐるのである。

新著紹介

○奄美大島貝類目錄

鹿兒島縣教育調査會發行

黒田徳米編

四六倍版一二六頁

昨年八月 聖上陛下奄美大島への行幸の際、天覽に供した大島産貝類に加へて、諸種の材料を整理し、一千百四十七種の目錄を獲たものである。奄美大島は貝類の一寶庫とも云ふべき處で、温帯性のもに加ふるに熱帯性のもを以てし、分布から云へば沖繩臺灣小笠原とに對し濃厚な關係を有する貝類群である。約一千百種の貝類は主として淺海のものであるが後來深海の探検が行届いたなら大島附近の貝類の種類は甚しく増すことであらうが、此の目錄は獨り現生の貝類の分布上興味ある資料を供するに留らず、鮮新世後の化石貝類の研究上役立つことが多いものである。殊に臺灣産の第三紀及洪積世貝類の研究上其の關係する所少々ならぬものと考へられる。猶本目錄には脚註に於て命名に關する注意及論議の短

註を加へ一二の新種を挙げられてゐる。從來の命名を攻究訂正された所に本書の價値はあり、且この點は編者が約二十年間の苦心攻究の結果と看るべきものである。(S)

○シヨリー説による地殻の輪廻

原田準平著

菊版二二九頁 寫眞版二 世界圖一 昭和三年六月 東京市外古今書院發行 定價二圓二十錢

本書はシヨリー博士の地球の表面史を譯したものである。

唯本書の第十一章底層帯の放射能は他の論文から採り、猶第十章放射能の支配的位置の附録に多色性量の研究を挿入した所が原著と異つた點である。曩に紹介者はデリーの「動き易い大地」の譯本を批評した際名著が譯述されるのを希望したが其希望の一端が實行されたと思ふと本邦地質學界の爲めに慶賀したくなる。然し當今の地學譯述書に對する同様の不滿が本書に就いても痛激に感ぜられる。第一は地殻の輪廻といふ新しい熟語が耳障りである。「地史上の大變動は循環して續起することは周知のことである」と原著書も講演して居るが、地殻の輪廻なる成語は本書の譯者の新案であつて、且つ面白からぬ考案である。シヨリーの地殼變遷説は岩石の放射能と地殼平衡との二大事實(たと彼は云ふ)を基礎として築き上げたもので、これを以て地史に於ける海浸、海退、造山作用を説くのは勿論進んで現在に於ける地表の凹凸即ち海陸の形態を説明せんとし、近世に於ける物理學的研究の結果の一部を用ひて地質學の根本問題を解明するにあるのが本書

新著紹介

の目的であるから、興味のあること多くである。本譯書はかなりよく原著の言々句々を追つて譯述してあるが、叙述部の少し長い文章になると吾等には意味の取れぬものになつてゐる處が甚だ多い。多分かゝる箇所は譯者が逐字譯をした跡で讀み直さなかつたのであらうが、大事な處になると判り悪くなるなら、譯者が緒言で併讀を希望されてゐるシヨリー等の諸論文と共に吾等には然かく不案内でない英語の原著を、字引を引き引きしても、明瞭に讀んだ方がよいと思ふ。再版を期待される本書中のかゝる不可解な部分と飛んでもない校正の手ぬかりと、全々誤解だと思へる部分とが直されたなら、如何に日本の地學愛好家を益するか知れない。譯者が原著にない挿圖を入れ(原著にある美しい寫眞版を除いた)理由で本書を譯するのは不適當と考へられたにも係らず、紹介者がこゝに譯であると書いたのは原著を幸に見ることが出来たためである。(S)

○地形圖の研究

福田連著 袖珍版二四七頁 昭和三年

六月 東京市外代々木初臺昭晃堂發行 定價一圓三十錢
本書の目的とする所は中等學校上級から高等學校生徒などの參考書として、登山の伴侶とせんとしたもので、猶軍事教練の方面にも役立たせようと企てたものである。地形圖の研究ではあるが地形圖の成り立や、讀圖以外に地質學的及地質學の見地から地形圖を判讀することを訓へた地形學書である前段の地形圖自身の説明 かなり初等のもので判り易く説い

てある。あまり程度の低くすぎた爲め事實を無視した記載へ見受けられる。一例を擧げて見ると水平曲線の項下に地形の表示方法として第一に彩色法(色階圖のこと)を説明し、「此の方法は五百萬分の一とか一千萬分の一といふ様な縮尺の小さい場合に用ひられ、一日で大體の高低や地勢を概覽する爲めに利用せられる」と書いてある。かう書くとパーソロミツのあの美しいイギリスで廣く用ひられる一時二哩地形圖の如きは世の中に存在の餘地を失つたことになる。又同じくケバ法は「四五十萬分の一程度以下の縮尺で地勢を明かにする目的に適する」などもオーストリーの七萬五千の一地形圖を蔑にしたこととなり、明治十六七年頃の内務省の東京や横濱の地形圖に對する吾人の憧憬を無視するものとなる。本書の甚だ喜ばしい所は河川以下山嶽、火山、湖沼を説いた部分にあつて、中に地質や地構線と地形との關係を明にし、殊に主要な地形が陸地測量部發行地形圖のどの圖葉にあるかを多くの例を擧げて説明してある。圖葉も朝鮮のものがかなり取り入れて居るのは、朝鮮では特殊の地形が内地よりも一層明かであるから、地形學攻究には甚だ都合がよい。唯一つ遺憾なのは最近數年間に地理の専門雜誌の中で、種々の形で説明された模式的な地形圖を例證として掲げてないことである。田中氏の清水港附近や、横山氏の三保の松原や、他の人々の赴職嶺、中和などが一つも参照されてないことは、本書が著者一人の獨自の研鑽によつて成つたものであることを強調するには都合よいとしても、讀者又は本書によつて研究を重ねようとする人達に對しては不幸のことである。さうば云ふものゝ本書の様な地形圖をどこまでもアッププレシエートさせるに骨折つた著述は初めてのものであることを江湖に告げたい。(N)

○理論岩石鑛物學 門倉三能著

(第一卷 汎論)

古今書院發賣 定價四圓八十錢

著書は此の數年間全然本書を書くのに没頭されて居たかに聞き傳へられて居る。

本書の出現に依つて遂ひに本邦にも最も高級なる邦語の岩石學の書が現はれた事になる。實を言へば今日までは我國には多少とも高級と思はれる岩石の書物は一冊もなかつたのである。従つて本書の出現は實に一、二階段を飛び越えて一氣に最頂點に達した感がある。

第一卷汎論として現はれた本書は殆ど全部相則を論ずる事に依つて費やされて居る。勿論岩石學の書であるから岩漿の成分をなす硅酸鹽を主とするものではあるけれども、相則の一般を詳細に知る爲めに理化學や金相學の學生にもよき參考書である。又探鑛冶金や工藝化學の學生及び専門家に参考になるべき事は疑ひもない。尙ほ著書が自ら言ふ様に人造鑛物鑛業、硝子及セメント工業の研究に資する所も甚だ多い事と思はれる。

本書の内容が秩序整然たる事は其の目次に依つて知るを得べく、第一編を岩漿とし、岩漿及地殻の成分、岩漿の状態を論

以下四編に亘つて岩漿凝固の原理と稱して相則の概念から一元系、二元系、三元系、四元系及多元系に及び詳細に理解し易く説き主要箇所にはゴシック活字を用ゐる等頗る讀者の便宜を考へて居る。尙ほ熟語には英語及び獨乙語をも附記してあるが唯人名及び地名だけに和名が付いて居らないのは一寸妙な感じがする。

兎も角著者が言つて居る様に斯の様に大部な理論岩石鑛物學の著書は世界にも甚だ多くないのであるから本書の出版に關して我が學界は甚だ感謝しなければならぬ。概して言へば本書は著者自身の研究を基礎として書かれたものではなく最近の學說をよく判斷して編まれたものであるから多少力強い感じが足りないでもないけれど又一方所謂研究者の偏見に煩はされる事もないから半面の長所を備へて居る。評者は岩石學の研究者が必ず一本を備へて研究の伴侶とせられん事を敢て推奨する。(本間)

○春日神社文書第一

奈良春日神社々務所發行

名にし負ふ春日大社の神威の反映たる累世の古文獻はその質と量とに於て他の追隨を許さぬことは申迄もないことであるが、今回かうした菊版八百頁からの大冊となつて世に出たのは、實に二條宮司森日禰宜などの努力の結果で、京大助教中村文學士の方ならぬ骨折の成果である。勿論國史の研究者に比類なき資料の提供であるが、人文地理學を學ぶものにも、かうした古い由緒のある神社を中心にして、過去を知

らんとする人に絶好の参考書である。あの讀にくい文書を讀み得るやうにして下さつた丈でなく、頭註と索引とによつて、無慮六一三通の古文書が一覽出来る外に、圖版三十これ又鮮明なものだ。いろ／＼な意味でこの一本をなつかしく感ずると共に、今更有難いと神恩を謝する心持ちになる。非賣品ではあるが實費九圓と送料五十錢を出せば、同社々務所から分與してくれるといふ。かうした本は無くならぬ中に買つておくものである。(藤田)

○滿洲考古學

菊版

八木井三郎著 同書院發行 六二一頁

滿洲舊蹟志を著はして旅行家に便せられた著者は今度本書を公にして古今土俗の諸相にふれて滿洲の民族心理を説明された。名は考古學ではあるが考古學だからとて古墳や石器や土器ばかりを相手にするのではない。滿洲や日韓の人文地理を學ばんとする人にとつて好箇の指針である。東洋歴史學者にも種々教える所の多い好著である。日本人の古代生活を知らんとする人々にも必讀の本である。紙もよい製本もうるはしい同書院の努力を多とする。(藤田)

○地形圖と地質圖

定價二圓

上治寅次郎著 東京古今書院發行

本書は四六版二百四頁の小冊子である圖版七十二、地形圖に關しては二七頁しか書いてないから名題の上から見ても十分であるとはいへない。我が國の地形圖についてもそれが出來

ていかに學界を裨益しつゝあるかといふことを全く顧みてないのは遺憾である。しかし地質圖の方は著者の専門だから要領を得たものであることは申さぬことである。檢定試験をうけんとする初歩の人に手頃の参考であらうかと考へる。

(藤田)

雜報

○愛知地理學會第三回第四回例會

五月廿六日愛

知女子師範學校にて開催

一、相駿豆の交界地方の自然と人文 榑崎 正男氏
六月二十四日午後一時、第四例會を縣立第一高等女學校にて開會

一、支那に於ける鐵と石炭

徳田 孝氏

二、豆南諸島の瞥見

夏目 易治氏

徳田氏はスミスの調査に基きて意見發表、夏目氏は實地視察の結果をプリントにて説明。さてこの愛知地理學會のプリントはいかにも丁寧な大部なるので餘程の努力を拂つたものである。蒙雨にかゝばらず參會するもの六十名、尙徳田氏は、「自然と人類」といふ本の趣味の地理書として價值があるといふことを紹介された、いづれば會員が讀んだ新刊物の紹介をもするやうにしたといふ話である。(榑崎報)

○上高地の風光

鳥々から梓川谷を廻ること十數町の明ヶ平の部落の入口に、右手の路傍に長さ約四米、幅二米内外

の兩雲母花崗岩がある。其面は滑かで相應に深い擦痕がある。ヘットナー教授が氷河の遺物といつたためにヘットナー・スタインと稱せらるゝ小川博士及田中學士は此一帶を氷河公園と激賞した。稻核橋をわたると數丁で稻核部落になる、左右の山腹に風穴があつて蠶種貯藏所になつてゐる。尙進んで鵬雲崎の邊に古生代の粘板岩と花崗岩との明白な觸接がある。こゝから鉢盛山方面の一帯はこの花崗岩で、ヘットナー石の轉び出た本家である。

崖下をすぎて右へ梓川俵ひに澤波、中の湯を通つて進めば上高地大正湖畔にでる、又澤波で左に分れると白骨温泉、大菩薩峠に出て机龍之助とお雪が冬籠した所になる。湯川左岸の颯類泉で古生層の上を石灰華が被つてゐる。湯川の浸蝕した隘道は俗にスイドよしと云つて長さ二百十二尺高さ七尺乃至二十二尺幅十九尺乃至五十尺を上下し、其天井から大小の鐘乳石が下る、諸川に柘榴狀又は鱗狀方解石があつて霰石といはれる。白骨温泉は石灰華が現に盛に沈澱してゐる。その種類が多く霰石も出來てゐる。今は活動を止めた噴湯丘が幾つものこつてゐる。無色透明で硫化水素の臭がある攝氏四十二度内外のやゝ白く濁つた湯である。

上高地は梓川に滑ふたS字狀の高原で長さ四里幅十町内外面積一萬五千餘町歩、梓川が清々しく澄んで流れる。穂高六白、霞澤、燒岳等の連山の中にあつて、川原に珍奇の化粧柳が林立する、東亞特種の珍種で幼樹や若葉は白粉をつけてゐるので、この名がある。高原の中に三つの小池があつて、岩